

## 地域が中心になって作った 子どもやっさもっさチーム インタビュー

本年度(社)三原青年会議所 郷土愛育成委員会では、子ども達が一人でも多く地域の祭りに参加していただくことで、人とひととを繋げる力を見出すことができ、地域の一体感や郷土を愛する心が育まれるように活動を行っています。

そこで、今月号では糸崎町において地域の大人達が中心となって結成され、現在では地域・学校・保護者が一体となった理想的な形で出場している「糸崎小ふれあいチーム」に着目し、地域の目線に主眼をおいて地域に住む大人としてどう考え立ち上げられたのか、現在に至るまでの「苦労などのお話を、チーム関係者の葛西 脩さんと森川 隆三さんに伺ってきました。

### 「地域の宝」子ども達のために やっさもっさで繋げた 地域との絆



糸崎小ふれあいチーム実行委員会  
もりかわ りゅうそう 森川 隆三さん  
かっさい おさむ 葛西 脩さん

子ども達に貴重な体験をさせてあげたい

**質問** なぜ、地域のチームを作って「やっさもっさ祭り」に出場しようと考えられたのですか？

**葛西** 直接的な要因は、二〇〇二年六月に市民会議において教育委員会より「子ども達に郷土の伝統文化を学ばせてあげて欲しい」との要請を受けたことですが、以前より私たちが子どもの頃に体験してきた「やっさもっさ踊り」が、大

人になってから地域に愛着を持つ大きな財産となっていたので、是非子ども達にも体験させてあげたいと思い、地域の方々

**質問** 子ども達の頃に体験した地域に愛着の持つことが出来る「やっさもっさ祭り」を体験させてあげたいと言われましたが、当時とは何が違っていましたか？

**森川** 当時は、糸崎地区でも多くの人が「やっさもっさ踊り」に参加していましたが、多くの人が企業チームやグループなどで参加していました。しかし、地域が一つになって行うことで家族の繋がりが深まり、地域同士・親同士の繋がりが深まります。それが子ども達の健全育成における大きな財産だと考えていたからです。

**質問**

各地域には、それぞれの伝統文化があると思いますが、なぜやっさもっさ踊りを選ばれたのですか？

**森川** 以前、三原を離れた遠い地で三原出身の仲間と出会う、その時一緒にやっさもっさを踊ることで一つになれました。やっさもっさは三原という大きな範囲で、みんなが故郷を思い出しながら踊れる踊りだと考えているからです。

二面に続く

ひととひとが繋がるまちを目指して！

### 七夕かきいたか

七月一日より中国人の個人観光ビザの発給要件が大幅に緩和された。これを機に日本を訪れる中国人観光客の急増が見込まれる。上海万博開幕当初は毎日のようにメディアに取り上げられていたが、中国人観光客はお土産などを多く購入してくれる大切な顧客で、その購買力を日本でも大きく発揮してほしい。日本での買物の定番は生活家電が中心で、親戚や友達の間まで「大人買い」も少なくないと聞く◆世界中から日本は注目されている。日本独特の風景や気候、文化など興味深いものばかりである。中国人にとっても例外ではなく、瀬戸の多島美などはその極みだ。そういった意味でも、中国との直行便をもつ広島空港がある三原にとっては最大のチャンスと言える。三原は交通の便が良いことを自慢しているが、それを逆手に取られ、通過されるだけじゃなく、なんとか足止めにしなければならぬ◆お金を落とせばいいわけではない。求めているモノでなければ、無意味である。求めているモノを的確に把握し、商機をもたしななければ、他都市が潤ってゆくのを、指をくわえてみるだけになってしまう◆まもなく三原では、やっさもっさ祭りが始まる。市民総参加で一体感を育むことと、観光資源として三原を潤わせるべく始まったこの祭りも、今年三十五回を迎え、新たなステージに上がる時が来たともいえる。